

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、前期に続き、自動車産業と自動車メーカーを研究対象として取り上げます。皆さんは自動車産業についてどれ位知っていますか。Waymo(Google)を始めとするICT企業はトヨタやフォルクスワーゲンに替わって自動車産業の頂点に立つのでしょうか? CASEとは何のことだろう? そんな質問にお答えします。自動車が誕生して1世紀以上が経過しましたが、この間、自動車は急速に普及し、身近な移動手段として、又、魅力的な消費財として世界中で、人々にとって生活に不可欠な地位を確立しました。日本の自動車産業は質量両面で世界のトップクラスに立っていますが、先進国市場の飽和と新興国市場の急速な伸張の中で熾烈な国際競争に曝されています。自動車メーカーは品質と生産性で高いレベルを維持しながら、環境・安全・情報通信技術の開発に取り組んでいます。同時に、グーグルやアップルに代表される情報通信技術に強みを持つ異業種の侵入に対抗して行かなければなりません。又、2020年からのコロナ禍は世界の自動車メーカーに大きな打撃を与えました。本講義ではそのような、「自動車産業革命」に瀕している世界の自動車市場と自動車メーカーの現状を捉え、自動運転車の普及に代表される、未来の自動車と交通システムについても考えます。

2. 授業の到達目標

- ・世界主要国自動車市場と自動車産業に関する基礎知識を身に付ける。
- ・今後の自動車業界や自動車メーカーの動き、更にはハードウェアとしての未来の自動車の形と、交通システムを考察し、これらについて他者と対話する力を身に付ける。
- ・自動車産業が環境と安全にどのように貢献していくのかを考え、自分の意見として述べる。

3. 成績評価の方法および基準

中間試験20%、小テスト(複数回)30%、期末試験35%、授業態度15%で成績評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストとしては毎回、配布プリントを使用、参考書は下記の通りです。他に日本経済新聞を参考に使用します。

参考文献

林 哲史 完全理解 自動運転 日経BP社
田中 道昭 2022年の次世代自動車産業 PHP研究所

5. 準備学修の内容

自動車関連の報道は日常的に大量に行われていますので、学生は日本経済新聞等の各種メディアを通じてそれらの情報を常時チェックした上で講義に臨んで下さい。こちらからも適宜有用な資料を提示・配布します。又、授業冒頭では前回授業の振り返りを実施したり、復習の小テストを行いますので、授業の復習に加えて、重要事項については追加で自主的に研究することを推奨します。

6. その他履修上の注意事項

自動車は日常において極めて身近なものであると同時に、その巨大な裾野を通して、想定以上に我々自身と多様な接点を有しています。従って学問として取り組むと同時に、自分にとって将来の職業としても考えてみて下さい。尚、下記の通り、第11回授業(12月4日実施予定、12月2日午前9時より閲覧可能)はLMS行います。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | 世界の自動車市場① 日本 |
| 【第3回】 | 世界の自動車市場② 北米
*第1回から第3回迄を対象とした小テストを実施するので、十分に復習しておくこと。 |
| 【第4回】 | 世界の自動車市場③ 欧州 |
| 【第5回】 | 世界の自動車市場④ BRICs
*第4回と第5回を対象とした小テストを実施するので、十分に復習しておくこと。 |
| 【第6回】 | 自動車部品産業 |
| 【第7回】 | 自動車小売産業 |
| 【第8回】 | 前半のレビュー
*第1回から第7回迄の講義内容を対象とした中間テストを実施するので、十分に復習しておくこと。 |
| 【第9回】 | 中古車販売 |
| 【第10回】 | その他自動車関連産業 |
| 【第11回】 | 自動車メーカーの機能① 企画・開発・研究・製造・調達(LMSによる) |
| 【第12回】 | 自動車メーカーの機能② 物流・マーケティング・アフターサービス
*第10回から第12回迄を対象とした小テストを実施するので、十分に復習しておくこと。 |
| 【第13回】 | 自動車について(エンジンと燃料) |
| 【第14回】 | 将来の交通社会
*当該セメスターの全講義内容を対象とした小論文テストを配布します。(提出は第15回授業) |
| 【第15回】 | 総括
*当該セメスターの全講義内容を対象とした期末テストを実施するので、十分に復習しておくこと。 |